

有限会社 クラフトホリ

新型ネイルチップ 「ジェルチップネイルC - GEL - C」の 拡販に挑む

事業内容

「じゃんけん大会」の優勝トロフィーも製作

昭和63年に^{そぞろ}塑像製作や、金属メダルの原型彫刻など鋳物型の製造をメインに大阪府大東市で創業した。特殊曲面へのエッチング加工のほか、ガラス、真ちゅう、石、木材など多様な素材にエッチングや彫刻ができる高い技術力を持つ。これまで自治体の庁舎や企業、公園などに設置されるブロンズ像、モニュメント、肖像レリーフの原型などを数多く製作。小ロットで、スポーツ大会や各種賞のオリジナルトロフィーも手がけている。アイドルグループ「AKB48」が行う恒例の「じゃんけん大会」の優勝トロフィーも過去に複数回製作した実績がある。

高度な型取り技法を生かし、 商品のコンセプトから企画・立案

現在は、高度な彫刻の型取り技法を生かして、商品のコンセプトから企画・立案した美容用品の製造・販売に力を入れている。付け爪（ネイルチップ）の「ジェルチップネイルC - GEL - C（シージェルシー）」がそれで、製造法などで特許も取得し、強力に市場浸透を図っている。

有限会社 クラフトホリ

代表取締役 谷丸 弘光
〒574-0016 大阪府大東市南津の辺町11-34
TEL. 072-879-2854 FAX. 072-879-2838
資本金/3,000千円 従業員/5名
主な取引先/デザインおよび広告・宣伝関連企業、ネイル商品販売業、通販サイト向けファッション雑貨、ネイル関連の取り扱い代理店・商社
主な保有設備/UVインクジェットプリンタ、ロールプレス、ホットメルト、ホットスタンプ機、紫外線照射器、真空ポンプ
主力製品/ネイルチップ、ネイルシール、ネイル接着テープ

短納期 OK 企画力 OK 小ロット OK オンライン対応 OK 量産 OK 海外対応 OK 試作 OK

補助事業

光硬化樹脂を用いた人と環境にやさしい製品

「光硬化樹脂を用いた人と環境にやさしい新型ネイルチップ製造技術の開発」が補助対象となった。この計画では光硬化樹脂を透明樹脂型内で成形する新手法により、形状保持と着脱が容易で、手肌や爪に悪影響を及ぼさないネイルチップとアンダーシート（はり付け材）を開発する。さらに品質と生産性アップに向けた量産システム確立への技術開発も進めていく。

医療用の両面テープを使用、 溶剤で除去する必要もない

ネイルチップとアンダーシートは、普及が進む現行のジェルネイルと同等の光硬化樹脂を成分とする。谷丸弘光社長は「素材面でも市場に受け入れられやすいように工夫した」と話す。また医療用の両面テープで爪につけるので、溶剤で除去する必要もなく、安全面にも配慮した。

関連設備はネイルチップに絵柄などを印刷するカラープリンタや、紫外線照射器、樹脂成形金型、アンダーシートの製造に活用するロールプレスなどで、昨秋から順次導入、量産体制を整えた。

応援・協力に感謝、 今後の展開に大いに期待

代表取締役 谷丸 弘光

当社の製品について理解し、多くの方から応援・協力してもらっています。ネイルサロンの業界に精通する大手企業も販売、企画・立案などで力添えを頂いており、今後の展開に大いに期待しています。



「ジェルチップネイルC - GEL - C」



新型ネイルチップのセット内容



ロールプレスに搭載した紫外線照射器

具体的成果

通信販売向けに量産をスタート

爪のおしゃれを楽しむ女性は年々増えており、中でもマニキュアよりも長持ちするジェルネイルという装飾方法が注目され、人気が集まっている。艶やかに見え、装飾のバリエーションも多い。谷丸社長は「関連する市場はこの10年間で大きく拡大している」と話す。ただ、平均して1ヵ月に1回付け替える必要があり、樹脂をヤスリで削る際に、爪が薄くなるといった恐れがある。またアセトン系の溶剤で溶かして除去すると肌を傷める懸念もある。

こうした課題に着目し、これらを解決するために生み出したのが「ジェルチップネイルC - GEL - C」で、補助事業の活用によって新規設備を導入し、平成28年12月から通信販売向けに量産を開始している。現行では月間2,000セット（1セット・チップ10枚入り）の生産能力を有している。

百貨店で店頭販売も実施

販売面では現在、大手通信販売業が運営するウェブサイトで販売を展開中。取り扱い商社などを通じて京阪神地区にある百貨店では商品特性を示しながらの店頭販売も実施しており、安全性や扱いの手軽さが評価され、製品はじわじわと市場に浸透している。

今後の戦略

5年後の売上高3倍増を見込む

谷丸社長は「日本国内をマーケットに美容商材を販売する大手企業と取引が成立し現在、準備を進めている」と、今後の販売拡大に期待を寄せている。さらに補助事業による量産システム導入の効果も現れることから、同社は5年後の平成34年に現在の3倍の売上高を見込んでいる。

セミナーなどによるPR活動を通じて「ジェルチップネイルC - GEL - C」への理解を深め、販路拡大を積極的に推し進めていく。これらの取り組みによって、年間2,000億円余りある既存のジェルネイルの市場の一角を切り崩したい考えだ。これには爪を傷つせずにチップの着脱を容易にするアンダーシートの存在が極めて重要で、高いレベルの量産技術の早期獲得を目指す。

販売・サービスネットワークの構築進める

拡販に向けては認定代理店を中心とした販売・サービスネットワークの構築も計画している。各地域で核となる代理店を募り、「ジェルチップネイルC - GEL - C」の特徴や安全性などについて地域に紹介してもらう。さらにはセミナーの実施や製品販売、サービス、フォローアップ（追跡調査）なども行ってもらう。現在、数十件の代理店候補があり実施体制が整い次第、活動を開始する構えだ。

取材を終えて

販路次第で 人気に火が付く可能性も

エッチング加工や金属鋳造による造形物などアート作品の製作を得意とする。ただ、3Dプリンタの登場以降、造形物製作などの需要は大きく減少した。これを打開するため、技術力を生かし新分野である「ジェルチップネイルC - GEL - C」の製造販売に挑戦している。この製品は安全性が高く、付け外しが簡単で安価、デザインもさまざまに選べるなどの特徴がある。販路の広がり次第では、人気に火が付く可能性もあり、今後の成長が大いに期待される。

<http://www.hori-hot.jp/>